



## PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ

文部科学記者会

科学記者会

御中

令和 5 年 4 月 26 日

岡 山 大 学

### 視覚障害の原因疾患の全国調査：第 1 位の緑内障の割合が 40%超 ～2018 年の視覚障害認定基準改正の影響が判明～

#### ◆発表のポイント

- ・全国調査の結果、2019 年度の視覚障害<sup>(1)</sup>の原因疾患の第 1 位は緑内障<sup>(2)</sup>、第 2 位は網膜色素変性<sup>(3)</sup>、第 3 位は糖尿病網膜症<sup>(4)</sup>でした。
- ・2015 年度と比べて順位に変化はありませんでしたが、緑内障の割合が 28.6%から 40.7%に急増しており、2018 年に実施された認定基準改正の影響が大きいと考えられました。
- ・緑内障は末期まで症状を自覚しにくいいため、症状が無くても定期的に目の検診を受け、病気の早期発見・早期治療をすることが重要です。

岡山大学学術研究院医歯薬学域（眼科学）の森實祐基教授と的場亮助教、鹿児島大学大学院医歯薬学総合研究科（眼科学）の坂本泰二教授らの研究グループ（厚生労働省、難治性疾患等政策研究事業、網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究班）は、2019 年度に視覚障害の実態の全国調査を行いました。この調査は、2015 年度に同グループが日本で初めて行った第 1 回目の全国全数調査に引き続いて行われた第 2 回目の調査で、新規に視覚障害認定を受けた 18 歳以上を対象に、年齢、性別、原因疾患、等級を調べました。全国 161 の福祉事務所の全てから回答を得て、そのデータを解析した結果、視覚障害の原因疾患の第 1 位は緑内障、第 2 位は網膜色素変性、第 3 位は糖尿病網膜症であり、2015 年度から順位に変化はありませんでした。しかし、緑内障の割合が 28.6%から 40.7%へと急増していました。この増加の背景には 2018 年に 23 年ぶりに実施された視覚障害の認定基準改正があると考えられ、その影響の大きさが明らかになりました。

この研究成果は 2023 年 4 月 17 日に *Japanese Journal of Ophthalmology* にオンライン掲載されました。

#### ◆研究者からのひとこと

身体障害のデータを管理する福祉事務所は全国に 161 もありますが、今回初めて回答率 100%を達成し、精度の高い調査を行うことができました。協力してくださった全国の担当者の皆様に感謝申し上げます。

緑内障は末期まで症状を自覚しにくく、一度進行してしまうと治療をしても視機能を回復することが難しい病気です。そのため、40 歳を過ぎたら自覚症状が無くても目の検診を受けることが重要です。また、すでに緑内障と診断されている方は、今回の基準改正によって新たに視覚障害に認定され、必要な福祉サービスを受けられる可能性があります。一度担当の先生に相談されることをお勧めします。



的場助教



## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

人は普段の生活の中で知覚する情報の80%以上を視覚から得ていると言われています。そのため、高齢化が進む社会において、年齢を重ねても高い生活の質を維持するためには、良い視力を保つことが重要です。視覚障害の原因となりやすい疾患を知っていれば、それらを対象にした予防や治療を重点的に行うことができます。そのため、1988年からこれまでに計4回の視覚障害認定の全国調査が行われており、その第4回目は2015年度に岡山大学らの研究グループが、日本で初めて全国全ての福祉事務所を対象にして行った全数調査でした。今回の調査は第5回目の調査、すなわち全国全数調査としては第2回目となります。

#### <研究成果の内容>

岡山大学学術研究院医歯薬学域（眼科学）の森實祐基教授と的場亮助教、鹿児島大学大学院医歯薬学総合研究科（眼科学）の坂本泰二教授らの研究グループ（厚生労働省、難治性疾患等政策研究事業、網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究班）は、2019年度に新規に視覚障害認定を受けた18歳以上を対象に、年齢、性別、原因疾患などについて全国調査を行いました。その結果、年齢の割合は80-89歳が29.6%、70-79歳が28.2%、60-69歳が15.3%であり、認定者の多くは高齢者でした。また、原因疾患の第1位は緑内障（40.7%）、第2位は網膜色素変性（13.0%）、第3位は糖尿病網膜症（10.2%）であり、2015年度から順位に変化はありませんでした。しかし、緑内障の割合が28.6%から40.7%へと急増していました。男女別では、男性が42.6%、女性が38.5%で、いずれにおいても共通して緑内障の割合が最多でした。

#### <社会的な意義>

本研究によって、視覚障害の主要な原因疾患が緑内障であること、そしてその割合が2015年度と比較して急増していることが分かりました。この増加の背景には2018年に23年ぶりに実施された視覚障害の認定基準改正があると考えられ、その影響の大きさが初めて明らかになりました。緑内障は末期まで症状を自覚しにくく、一度進行してしまうと治療をしても視機能を回復することが難しい病気であるため、自覚症状が無くても目の定期検診を受けることが重要です。また、すでに緑内障と診断されている方は、今回の基準改正によって新たに視覚障害に認定されたり、等級が上がったりする可能性がないかどうか、主治医と相談することが勧められます。

### ■論文情報

論文名：A nationwide survey of newly certified visually impaired individuals in Japan for the fiscal year 2019: impact of the revision of criteria for visual impairment certification

掲載紙：Japanese Journal of Ophthalmology

著者：的場 亮（岡山大）、守本典子（岡山大）、川崎 良（大阪大）、藤原美幸（岡山大）、金永圭祐（岡山大）、山下英俊（山形市保健所）、坂本泰二（鹿児島大）、森實祐基（岡山大）

DOI：https://doi.org/10.1007/s10384-023-00986-9



## PRESS RELEASE

### ■研究資金

本調査は、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業、網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究）の助成を受けて実施しました。

### ■補足・用語説明

- (1) 視覚障害：視覚に関連した機能障害の総称。身体障害者福祉法に則って、視力や視野の障害の程度に応じて認定される。
- (2) 緑内障：目の神経の障害によって視野が狭くなり、視力が低下する病気。
- (3) 網膜色素変性：進行性に網膜が障害され、視野が狭くなり、視力が低下する病気。
- (4) 糖尿病網膜症：糖尿病を原因として網膜に出血や網膜剥離を生じる病気。

#### <お問い合わせ>

岡山大学 学術研究院医歯薬学域

助教 的場 亮

(電話番号) 086-235-7297

(FAX) 086-222-5059



岡山大学  
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。